

令和6年3月吉日

世田谷区立等々力小学校  
校 長 遠藤 雅孝様

世田谷区立等々力小学校  
学校関係者評価委員会  
委 員 長 杉 本 裕 代

## 令和5年度 学校関係者評価の結果と考察について

皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

アフターコロナが定着してきたとはいえ、何かと落ち着かぬ社会状況のなか、関係者アンケート実施にあたってはご協力賜りありがとうございました。令和5年度は、昨年度末の異動により、遠藤雅孝校長、石黒重信副校長が同時に新しく着任なさり、まさしく新しいスタートの年でした。

令和5年度の等々力小学校の課題と令和6年度に向けての改善策をここに報告いたします。

本校が子どもたち・保護者の皆様・地域の皆様にとって、よりよい学校となるよう、これからもご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

◇調 査 日 令和5年11月18日～27日（インターネット経由のパソコンやタブレット等の端末での回答）

◇調査回収数 5・6年児童（212名） 保護者（381名） 地域（27名）

◇回 収 率 5・6年児童（90％） 保護者（55％） 地域（45％）

1月に開催された学校評価委員会において、話し合いを行い、遠藤校長、石黒副校長からのアンケート結果の報告を伺いました。先生方がこれまでのご経験を十分に活用しながら、等々力小学校の児童に向かい合い、体制づくり、チームビルディングに尽力なさっている様子が感じられ、それがアンケート結果にも反映されていました。また、こうした結果は、新しい体制を支えてこられた等々力小学校の教職員の方々のサポートなしには考えられないと思われます。学校関係者評価委員会でも、皆様がこの一年を乗り切られたことに感謝と敬意の念を新たにすることを、ここに申し添えます。

具体的な例を挙げれば、ホームページからの情報発信の活発になったことは、大変大きな変化だったと思います。これまで、長年のあいだホームページの活用が課題として挙がっていたこともあり、ホームページの活用は、保護者や地域の皆さんにとって有益な変化だと思われますので、引き続き、発信およびその周知に（特に地域の方へ）を続けて頂きたいと思います。

そのほか、児童の精神的なケアや授業運営に関しても、高評価の結果を得ています。一方、体力・運動面、読書面では、それぞれの個性を生かしながら、また都心という限られた物理的環境の中で、工夫が求められているようです。社会の中の価値観が激変するなかで、キャリア教育も懸案事項として見えてきましたが、先生方の様子からは、等々力という地域の特性を生かしながら、より豊かな教育を模索する姿勢が感じられますので、これからの展開を期待したいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様のより一層のご関心・ご協力をお願いしたいと思います。

アンケートの結果の概要と、それに対しての委員会のコメントは次の通りです。

# Ⅰ アンケート結果分析 主な特徴を掲載

## 1) 児童(5・6年生対象)「Aとても思う」「B思う」の合計 令和4年度対比(単位:%)

	R4	R5	対比
あいさつをすすんでいる	66.7	82.5	+15.8
友だちのよいところを、よく見つけられている	74.2	85.4	+11.2
「本が好き」または「本を読むのは楽しい」	77.5	84.4	+6.9
先生は、児童の意欲を大切にしている	79.2	87.2	+8.0
先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	86.7	95.3	+8.6
先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている	93.3	98.1	+4.8
学校生活は楽しい	85.0	92.0	+7.0
区立中学校に関する情報が提供されている	44.2	52.3	+8.1
自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	74.2	62.8	▼11.4

## 2) 保護者「Aとても思う」「B思う」の合計 令和4年度対比(単位:%)

	R4	R5	対比
本校は、地域に情報を提供している	59.0	72.5	+16.5
本校は、HP やメールなどで、保護者に情報提供をしている	83.7	88.1	+4.4
本校の教育活動に満足している	75.2	82.6	+7.4
「学び舎」の区立幼・中学校について情報が提供されている	79.6	69.1	▼10.5
本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している	64.4	60.4	▼4.0

## 3) 地域の方「Aとても思う」「B思う」の合計 令和4年度対比(単位:%)

	R4	R5	対比
「学び舎」の活動について、情報が提供されている	84.4	59.2	▼25.2
通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている	90.7	77.8	▼12.9
学校のHPに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。	81.3	70.3	▼11.0
学校は、安心・安全な学校づくりを進めている	90.6	81.5	▼9.1

## 4) 教員「Cあまり思わない」「D思わない」「Eわからない」の合計 = 低い項目(単位:%)

子どもたちは、「あいさつ・返事・お礼の言葉」が身についている	57.1
教科「日本語」のねらいを理解し、授業の充実に取り組んでいる	39.3
食育の推進に計画的に取り組んでいる	28.6
安全・危機管理がされている	25.0

5) 補助資料 全国体力・運動能力調査より 5年 T 得点(全国平均値を50とし、相対に算出したもの)

種目	男 子		女 子	
	東京都	本 校	東京都	本 校
握力	50.3	50.0	50.0	48.9
上体起こし	50.4	49.8	50.5	50.5
長座体前屈	50.6	59.7	50.9	62.0
反復横跳び	49.9	45.1	49.8	45.0
20mシャトルラン	49.6	43.2	48.8	42.8
50m走	50.7	50.8	50.8	51.9
立ち幅跳び	49.7	46.9	49.9	46.8
ソフトボール投げ	49.3	46.8	48.5	45.7
体力合計点	50.0	48.2	49.8	48.8

## 2 以上の結果特徴より

### 1) あいさつをすすんでいる態度について

児童(5・6年生対象)アンケートは、「A とても思う」「B 思う」の合計が、令和4年度対比+15.8(66.7%→82.5%)と実感しているようである。保護者アンケートでは+5.8%(59.2%→64.6%)と上がり、少しはよくなっていると思われる。また、あいさつキャンペーンに参加している学校運営委員からも「挨拶をするようになったと実感があります」と感想があった。

しかし、教員からは、「児童がすすんであいさつをしているか」と問われると、57.1%が「C あまり思わない」「D 思わない」「E わからない」と答えている。まだまだ、習慣付けを図る必要がある。

コミュニケーションの扉として、挨拶する習慣を自律的に身に付けられるよう家庭と学校、地域で児童を育てていきたい。

### 2) ホームページ更新について

日々、ホームページを更新していることは大いに評価できる。地域に対して、ホームページの周知を図るとともに、学習材を地域施設、地域企業、地域居住者に求め広げていく。児童の学習に地域が関わっていけば、自然と地域のホームページの閲覧を高まっていくであろう。

### 3) キャリア教育・学び舎について

キャリア教育を通して、進路指導、職業体験のみではなく、「なりたい自分 Well-being」として、夢をもって努力することの大事さを考えさせていきたい。

学び舎を通して、学習内容や行事など、密になる中、学校として、みしまの森児童・生徒合同会議の他に、学年交流を模索している。しかし、小1ギャップ、中1ギャップの適応できない状態をなくし、スムーズに幼稚園、保育園から小学校の生活へ、小学校の学び方から中学校への学び方へと入れるように連携を図っていく。

また、児童が地域に根差した生活、地域をよりよくしていこうとする心情を育てるための「幼保・小・中」の学びの継続性を太くしていく。

### 4) 体力づくりについて

運動する習慣がある児童と習慣がない児童との二極化が進んでいる。

反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げの運動能力が低い。瞬発力、持久力、投力において、動き方(瞬発力)、投げ方(投力)の運動経験の少なさが要因であろう。また、持久力は、持続的に学

習を取り組む態度にも関連があるため、小学生から体を動かす習慣付けが必要である。

しかし、休み時間の過ごし方として、絶対に外で出す方針でない。委員会や係活動をする児童の他、読書したい児童、静かに過ごしたい児童に対しては尊重している。

#### 5) 教科「日本語」、食育指導、図書指導において

##### (1)教科「日本語」において

外国語活動、外国語の導入により、3年生以上の指導時間が半減され、年間18時間の指導時間である。美しい日本語を学ぶ、世田谷区のよさだったが、今後については注視していきたい。

##### (2)食育指導について

食べること、運動(日常生活)すること、寝ること、排せつすることは、人間生活として、毎日行っていることである。バランスよく食べる点においては、上記の4)「体力づくりについて」とも関連させて、運動する日常化を図り、汗をかき、空腹を感じ、バランスよく食べるという健康づくりにつなげていきたい。

##### (3)図書指導において

1階のブックコーナー、2階のライブラリーと蔵書場所が2か所に分かれているのは、不便である。また、児童が読むスペース、調べ学習スペースもない。落ち着いて図書をする教室、探求的な学びをするための調べる教室の要望をしていくべきである。

#### 6) その他

保護者の回答率が WEB アンケートによる実施によって、令和4年度53.6%、令和5年度55.5%と以前より下がった。紙面アンケート並の回答率になるよう、保護者に協力を求めている。学校評価に関心をもっていただきたい。